

市長定例記者会見資料



令和3年8月24日	
所属	政策推進課
所属長	堀井 美雲
電話	06-6489-6124

ここを読めば、まちづくりの評価が分かる。「まちの通信簿」がまとまりました
～令和3年度 施策評価結果（令和2年度決算）を公表します～

1 施策評価とは

尼崎市では、平成25年度に策定した総合計画（まちづくり構想）において、目指すべき4つの「ありたいまち」を示しています。

また、その実現に向けては、本市の事務事業を16施策（学校教育・高齢者支援等）に分類し、取組の方向性を示すとともに、毎年度、取組状況を振り返る「施策評価」を実施し、その結果を政策立案など次年度の予算編成につなげていくといったPDCAサイクルを実施してきました。

後期まちづくり計画期間の3年目の評価となる、令和3年度の施策評価においても、市民の皆さんに、市政の状況を分かりやすくお伝えし、市政に関心を持っていただけるよう、これまでの各施策の評価に加え、「4つのありたいまち」に向けた進捗評価や、まちづくり全体に対する総合評価など、“ここを読めば本市のまちづくりの進捗状況が分かる”といったものを「まちの通信簿」としてまとめ、公表していきます。



2 「まちの通信簿」

「まちの通信簿」においては、まちづくりの総合目標と、4つのありたいまちごとの目標に対し、それぞれ指標を定め、その推移をもとに、まちづくりの進捗を総合的に評価しています。

(1) 総合評価・・・別冊P30～32

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に注力する1年となりました。また、ウイズコロナ対策とあわせて、これまでのまちの改善傾向の継続をしっかりとした流れとするための取組についても、着実な推進に努めました。

そのような中、令和2年の本市における人口は3年ぶりに減少に転じました。本市のまちづくりの総合指標である「ファミリー世帯の転出超過数」は299世帯となり、ファミリー世帯の転出数は調査開始以降6年連続で減少しているものの、それを上回る転入数の減少があったことによるもので、2年連続で目標から遠ざかる結果となりました。

「駅前周辺がきれいに整備されるなどまちの景観がよくなった」等を理由に、尼崎市のイメ

一がよくなったと感じる市民の割合は引き続き5割を超えています。新たに策定した「住まいと暮らしのための計画」に基づいて、良好な住宅が供給され居住地としても選ばれるまちを目指します。また、その魅力を効果的に発信することで、まちのイメージ向上やファミリー世帯の定住・転入促進にもつなげていきます。

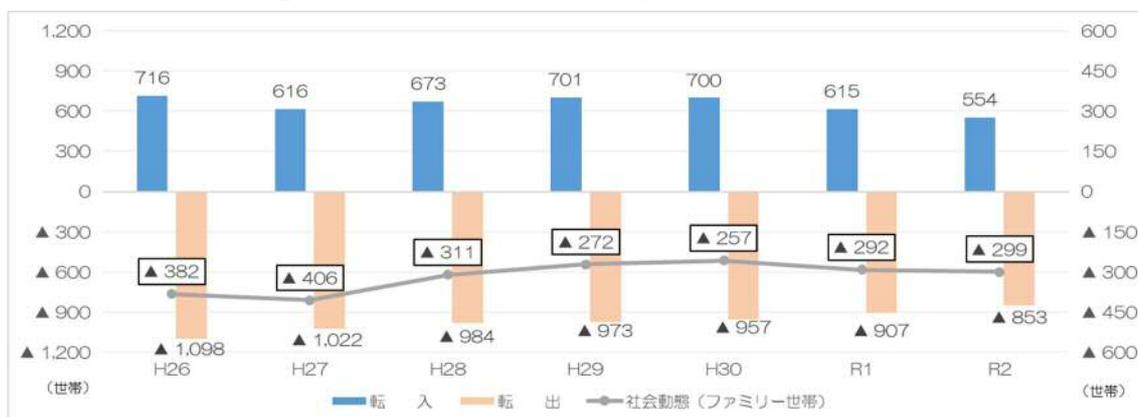
(2) 総合指標によるまちづくりの評価・・・別冊P14～18

①目標1：あまがさきで子どもを育てる人を増やす（別冊P14）

- ファミリー世帯の転出超過数は住宅供給の影響などによりやや悪化したものの、市外へ転出する世帯は調査開始以降6年連続で減少が続いています。
- 本市の人口は、3年ぶりに減少に転じましたが、これは、社会動態の増を上回る自然動態の減によるもので、自然動態については今後も少子高齢化による減少傾向が大きくなっていくことが見込まれます。社会動態は5年連続の増となっており、若い世代を中心に転入超過傾向が続いています。



【図1 本市の社会動態の推移（ファミリー世帯）】

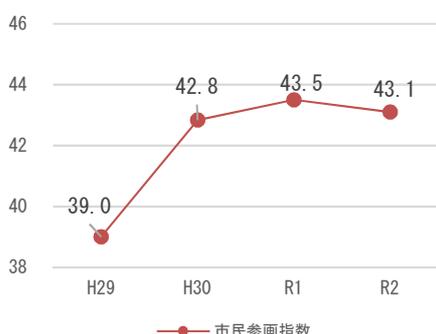


②目標2：まちのことを想い、活動する人を増やす（別冊P16）

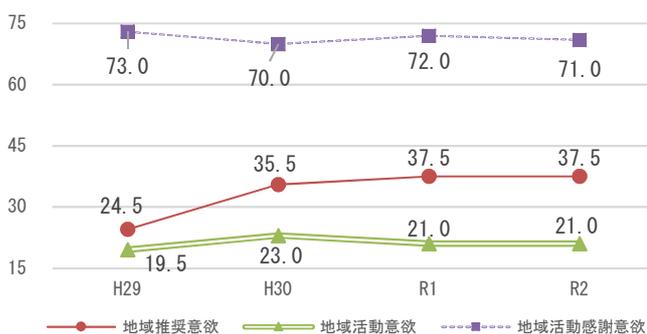
- 令和2年度の市民参画指数は43.1となり前年度と比べほぼ横ばいであり、引き続き、「地域活動感謝意欲」は高いものの、「地域推奨意欲」と「地域活動意欲」が低い数値となっています。
- 「地域推奨意欲」を高めるには、改めて本市の文化や歴史、住みやすさを再認識できるよう丁寧な情報発信やまちの良さを実感できるような機会を積極的に創出していくことが必要です。
- 本市を取り巻く環境の変化と「市民参画指数」の推移について、より詳細な分析を行うことができよう、引き続きデータの蓄積をしていく必要があります。



【図2 市民参画指数の推移】



【図3 市民参画指数を構成する3意欲の推移】



(3) 4つの「ありたいまち」に向けた主要取組項目ごとの評価・・・別冊P19～29

①人の育ちと活動を支援する（別冊P19）

（目標1：子どもたちの学力を伸ばしたい 目標2：地域活動を活発にしたい）

トピック あまっこステップアップ調査でD層の割合が着実に減少！

地域活動に参加している市民の割合の低下が課題

②市民の健康と就労を支援する（別冊P22）

（目標1：健康寿命を延ばしたい 目標2：「生きがい」を持って暮らす高齢者を増やしたい）

トピック 健康寿命、平均寿命は男女ともに延伸！

生きがいを持って暮らす高齢者の割合の低下が課題

③産業活力とまちの魅力を高める（別冊P26）

（目標1：まちに訪れる人を増やしたい 目標2：まちのイメージを良くしたい）

トピック 観光客入込客数はコロナ禍で大幅に減少

尼崎市のイメージがよくなったと感じる市民の割合は引き続き5割をキープ！

④まちの持続可能性を高める（別冊P28）

（目標1：二酸化炭素排出量を減らしたい 目標2：快適に暮らせるまちにしたい）

トピック 課題であった二酸化炭素排出量（民生家庭＋業務部門）も目標値を達成！

脱炭素社会の実現に向けた取組を加速！

3 施策評価結果の活用

施策評価結果は、市議会に決算審査の附属資料として示し、施策評価を踏まえた意見（提言）をもらうとともに、令和4年度の予算編成につなげていきます。

また、まちづくりの進捗を市民・事業者の皆さまと共有するために、「まちの通信簿」を9月1日から市ホームページで公表します。

以 上